

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>信用が資本の人づくり ～ビジネス社会の未来を担い、地域を支える人材を育成する教育プログラムの開発を通じた新しい商業高校モデルの構築～</p>		
2 研究の概要	<p>本研究は、知識基盤社会やグローバル社会に対応できる幅広い知識や柔軟な思考力を、本校がもつ様々な財産やネットワークを有効に活用しながら身に付けさせ、時代の変化や社会のニーズを事業に結び付けながら新しい価値を創り出すことのできる人材として、またビジネスの専門的知識を活用し既成概念にとらわれないチャレンジ精神でこれからの地域産業界の活性化を担う人材として必要な下記の資質・能力を育成するための人材育成プログラムを開発し、新しい商業高校モデルを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の大学、企業、経済団体などとの連携を通じた、高付加価値な商品・サービスの開発を担うベンチャーに必要な資質・能力を身に付けた人材の育成 2 銀行、証券会社、生命保険・損害保険会社等に関する企業研究及びその職務の研究などを通じた金融を担う資質・能力を身に付けた人材の育成 3 資格取得への挑戦を通じた、職業会計人、情報処理技術者、ファイナンシャルプランナーなどの職業に就くために必要な資質・能力を身に付けた人材の育成 		
3 令和元年度実施規模	<p>下記の研究計画のプログラムを実施した学年、学科は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (1) 1 (2) 3 (3) 全学年 (840名) 2 (1) . . . 1学年 (280名) ・ 2学年商業科 (200名) (2) . . . 1学年 (280名) ・ 海外研修生徒 (10名) 3 (1) . . . 1・2学年情報処理科 (160名) 3 (2) . . . 2学年ビジネス進学コース (40名) 		
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <p>基本的には、3年間、教育プログラムの項立てを変えずに、他の学年や科目での取り組みに広げ、新しい活動内容を取り入れていく。</p> <table border="1" data-bbox="185 1541 1390 2051"> <tr> <td data-bbox="185 1541 357 2051">第1年次</td> <td data-bbox="357 1541 1390 2051"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 </td> </tr> </table>	第1年次	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成
第1年次	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Conversation、Speech を中心に取り組み実践的な英語の技能向上を図る。 <p>(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外研修を通して、日本の伝統・文化を再認識し、個々の幅広い教養を身に付ける。 <p>3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成</p> <p>(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Java によるプログラミング能力の向上を図る。 <p>(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計情報の分析・活用能力の基礎・基本の育成を図る。 <p>(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融について基礎・基本の理解を図るとともに、FP検定3級へ挑戦する。 ・ 金融に特化したインターンシップ実施により金融業務の理解を図る。
第2年次	<p>1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成</p> <p>(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンブレラをはじめとする各種コンテスト等に積極的に参加する。 <p>(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップを高めるため、メンタルトレーニングについて理解する。 <p>※上記(1)(2)のプログラムとも1年次の実施事業は、引き続き同様に実施</p> <p>2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成</p> <p>(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Presentation を中心に取り組みより実践的な英語力向上を図る。 <p>(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる言語・文化・価値を学び、国際的感覚やグローバルな視野を深める。 <p>※上記(1)(2)のプログラムとも1年次の実施事業は、引き続き同様に実施</p> <p>3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成</p> <p>(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データベースの構築から実装まで Microsoft Access を用いて取り組む。 <p>(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業会計に関する法規を踏まえて経営管理や分析ができるようにする。 <p>(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種コンテスト等に積極的に挑戦し、金融経済の仕組みを理解する。 <p>※上記(1)(2)(3)のプログラムとも1年次の実施事業は、引き続き同様に実施</p>
第3年次	<p>1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成</p> <p>(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾人向けイベントを意識した旅行商品を考案する。 <p>(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科と連携しイベント的な場面を通してリーダーシップを発揮させる。 <p>※上記(1)(2)のプログラムとも1・2年次の実施事業は、引き続き同様に実施</p> <p>2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成</p> <p>(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成</p>

- ・Discussion を中心に取り組み即興性を意識した実践的な英語力向上を図る。
- (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成
 - ・海外でのプレゼンテーションを通して、グローバル社会で活躍できる力を身に付ける。
- ※上記 (1) (2) のプログラムとも1・2年次の実施事業は、引き続き同様に実施
- 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成
 - (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成
 - ・実務を意識し販売データを処理できる総合的なプログラムの開発を行う。
 - (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成
 - ・英語で財務諸表を理解できるスキルを身に付けさせる。
 - (3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成
 - ・FP検定支援体制を構築し、FP検定2級へ挑戦する。
- ※上記 (1) (2) (3) のプログラムとも1・2年次の実施事業は、引き続き同様に実施

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

特記事項無し

○平成 31(2019)年度の教育課程の内容（平成 31(2019)年度教育課程表を含めること）

本校では、商業科5クラス、情報処理科2クラスの合計7クラスで編成されている。

商業科5クラスは入学時より進路を意識したコースや系列を設けている。1学年ではビジネス総合コース4クラスとビジネス進学コース1クラスで編成され、2学年ではビジネス総合コースの4クラスが就職を目指すキャリア系列3クラスと進学を目指すアドバンス系列1クラスに編成されている。（別紙「平成 31(2019)年度教育課程表」参照）

○具体的な研究事項・活動内容

1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力

(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成

①経済同友会 地域振興委員会（7月）

講話1 講師 ジャパン・ワールドリンク（株）CEO 宮地アングス 様

講話2 講師 県産業労働観光部観光交流課インバウンド推進担当GL 大貫大輔 様

②起業家による講演（12月） 講師（株）川口鉄筋建設 代表取締役 川口篤史 様

③起業家による講演（12月） 講師 三信電工（株） 代表 名村史絵 様

④大学訪問（12月） 作新学院大学、帝京大学、国際医療福祉大学を訪問

講義等の参加を通して柔軟な思考力を身に付けるための体験活動を行った。

作新学院大学 「ゲーム業界の企業と市場」

帝京大学 「益子町を事例に地域経済について具体的に考える」

国際医療福祉大学 「組織で求められるリーダーシップの在り方」

⑤「課題研究」の授業において、商業の各分野に関する課題を生徒が自ら設定し、主体的かつ協働的にその課題を探究し、実践的・体験的な学習活動を行う。

⑥新商品研究（通年）

各班が栃木の特産品を既存商品なども調べながら新商品案を考えた。アンケート調査や聞き込み調査も行い、コンセプトの設定やターゲットの絞り込みなどを考え完成度を高めた。

⑦出前授業（11月） 講師（株）あさや 上河内サービスエリア 支配人 藤田昭弘 様

考案した新商品に対する評価・改善等のアドバイスをいただいた。

⑧校内課題研究発表会（12月）

各クラス代表1グループを選出し、本校体育館にて、全校生徒・教員・学校評議員・保護者に向けて1年間の研究成果の発表をした。

⑨クラス内発表会（12月）

各グループが研究内容を10分程度にまとめ、パワーポイントを使用してクラス内でプレゼンテーション発表を行った。

(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成

①小中高と企業と地域との連携「高校生未来の職業人育成事業」（夏休み中の3日間）

協力企業 ヤマゼンコミュニケーションズ（株） 参加者 本校生徒、近隣の小中学生

②講演会 講師 ヤマゼンコミュニケーションズ（株） 常務取締役 山本純子 様

③講演会 講師 作新学院大学経営学部スポーツマネジメント学科教授 笠原 彰 様

2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力

(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成

①クラス内スピーチ発表会

ア. Show & Tell 自分のお気に入りの写真や物についての説明。（1年1学期）

イ. 写真を見せながら観光案内（名所についての説明）を行う。（1年2学期）

②クラス内プレゼンテーション発表会

ア. “My favorite thing” について発表を行う。（1年2学期）

イ. クラス内で Research Project を行う。（2年1学期）

ウ. 全学年にアンケートをとって Power Point を用いて発表。（2年2学期）

③英語を含む外国語学習に対する意識調査

④台湾の高校生との Web 交流（10月下旬・11月上旬）

⑤講演会 講師 フリーの英語通訳案内士 平野聖乃 様

(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成

①講演会 講師 仙波糖化工業株式会社 取締役総務部長 市川剛久 様

②台北市立松山高級商業家事職業学校との事前 Web 交流

③台湾研修打合せ学習会（5回実施）および宇都宮大学台湾留学生との交流会

④台湾研修旅行 12月16日（月）～12月20日（金）（4泊5日）

⑤台湾研修報告会 1月31日（金） 全校生徒を対象にした報告

3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力

(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成

①教科における学習

情報処理科の1年生は情報処理（2単位）とプログラミング（5単位）を履修し、Javaの特性を活かしたプログラミングを学習させた。また、情報処理科2年生はビジネス情報管理（5単位）を履修し、データベースの設計・構築を考えさせることで、データベースの基礎を学習させた。

②情報処理技術者試験対策講座（年3回実施）

本校同窓会からも支援をいただき、専門学校で受験対策の学習ができる環境を提供した。

③企業の「情報システム担当者」による講話（12月）

講師 藤井産業（株） インフラ営業技術課専門課長 荒井健二 様（情報処理安全確保支援士）

④プログラム開発（グループ研究）（2月）（10時間程度）

情報分析プログラムを作成させるグループワークを実施。協働することで「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れるとともに、思考力の育成と知識の定着を図る。

1年生：気象データを用いた Java によるデータ分析 2年生：データベースシステムの設計

(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成

①講演（9月）講師 中央大学経理研究所専任講師 公認会計士 小島一富士 様

②講座（9月）講師 大原簿記学校 税理士講座 時間の達人 上間頭一郎 様

③講座（9月）講師 東京 CPA 会計学院 山内 樹 様

④講座（10月 2回）講師 東京 IT 会計法律専門学校 池田正明 様・高橋純一 様

（3）金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成

①ミニインターンシップ（金融の実践的な能力を育成する職場体験 7月）希望者 24 名

事業所 東京海上日動火災保険(株)、大和証券(株)、(株)栃木銀行、(株)日本政策金融公庫

②講演（10月）2・3年生 講師（株）栃木銀行金融サービス部 副調査役 大栗敬史 様

③講演（10月）1年生 講師（株）栃木銀行法人営業部地域創生室 副調査役 島田 勉 様

④売買に関する計算の学習（金利や利息についての計算） 1年生「ビジネス基礎」

⑤FP講座（10月～1月 12回実施）

講師 ファイナンシャルプランナー 参加生徒 3年生 3級FP技能検定受験希望者19名

⑥バーチャル株式体験学習プログラム（STOCKリーグ）に参加 3年生

⑦全国高校生金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）に挑戦 3年生

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法（普及状況については、可能な範囲で、他校・他地域への波及効果などを記載すること）

研究成果については、県教委主催のとちぎの高校生課題研究等発表や県内の商業科教員が一堂に会する栃木県商業教育研究大会等で発表し、栃木県内の高校や県全体の商業関係の専門高校で共有化を図っている。また、生徒自身がPTA総会や同窓会総会、校内課題研究発表大会等で発表するとともに、中学生が来校する一日体験学習で発表することで本校の取組を知ってもらおう機会としている。また現在、本校のホームページにSPHの項目を設け、SPH事業関連の行事等を実施するごとに記載している。地域をはじめ全国に広く本校の取組を紹介している。

○実施による効果とその評価（数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること）

（1）起業家精神の育成では、大学訪問や講演会、課題研究や商品開発を通して、チャレンジ精神の重要性や起業に対する関心が高まっている。大学訪問後の生徒のアンケート結果では、95%以上が、身近にある課題を解決するための知識が高まり、参加して良かったとの意見であり、専門的な講義の受講は、起業家精神を伸ばすために重要なプログラムであった。商品開発を行った班の中には、企業や関係機関と連携するために、自らインタビューを実施する班や、自主的に企業に商品案の評価をお願いに行った班もあり、行動力や思考力、判断力等、徐々に起業家精神が身に付き、発揮されている。

（2）リーダーシップの育成では、2年生は職場体験や前年度末の講演で得たことを生かし、HRや生徒会等の場面で95%超の生徒がリーダーシップを発揮できていた。さらに今年度末の講演でメンタル面の知識を得ることができ、90%以上の生徒が内容を理解し、緊張する場面で「成功するイメージを持つ」など前向きな気持ちになることができていた。

（3）英語によるコミュニケーション能力の育成では、2年生を中心に「リサーチと発表」を行ったが、各技能の自己評価において、8割以上の生徒が意識・能力の向上が図れたという結果を得た。苦勞しながらも意欲的に取組み、相手に伝わるように発表や英文構成の仕方に工夫をこらすことにより、約85%の生徒が英語学習に対するモチベーションを高めることができた。

（4）グローバルな視野の育成では、台湾の歴史や文化・経済等の事前学習やWebでの交流をはじめ現地訪問により99%の生徒がグローバルな視野の必要性を認識できた。またビジネスの最前線で活躍されている方からのお話を通して、海外市場を意識して働くことのイメージをもつことができ、99%の生徒が将来の仕事や職を考える契機となった。

（5）情報処理・活用能力の育成では、講話の実施前後のアンケートで、授業に対する意識の向上が約96%の生徒に見られ、また、将来の職業に対する意識も「かなり高まった」、「高まった」と回答した生徒が全体の95%となった。1年生から具体的な職業を意識させることで、特に学科に適した情報処理に関する専門的な学習を、一層意欲的に取組む動機とすることができた。

（6）会計情報の分析・活用能力の育成では、各学年に応じたプログラムを実施した結果、将来簿

記の知識が必要であると再確認し、1年生全体（278名）の98.1%が、学習意欲が高まった。また、2年生においては、授業を通して、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を理解し、経営管理や経営分析ができる能力を育成することができた。簿記・会計について、クラス（40名）の92.5%の生徒がより深く学びたいと考えている。

- (7) 金融リテラシー能力の育成では、講演を通してお金に対する正しい知識や金融商品の種類、内容について97%の生徒が理解を深めることができた。また、経済や株式、金融への専門的知識が身についたか確かめるために、各種コンテストに積極的に参加した。エコノミクス甲子園では、36チーム中16位という結果を残すことができた。チームとして他校の生徒と競い合うことで、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養うことができた。

○実施上の問題点と今後の課題

- (1) 起業家精神の育成については、好評であった大学訪問を増やし、より専門的な知識を吸収するとともに、学ぶ意欲の向上や行動の必要性を考える機会を増やしたい。また、商品開発では、ターゲットへのアプローチ方法や、商品開発の着眼点などを、外部と協力することで、より多くの知識を吸収できるため、校外での活動を増やしていきたい。旅行商品は、多くの生徒が栃木県の観光プランを考える取り組みをするとともに、他のプログラムと協力しながら、台湾人向けのインバウンドを意識した旅行プランを考え、旅行業者と連携しながら実際に販売できる旅行商品を考案させていくことで、高付加価値なサービスを開発できるよう努めたい。
- (2) リーダーシップの育成では、「自分にリーダーシップがないが必要性を感じる」が83%、「メンタルトレーニングを受けてみたい」が80%と、前向きな考えを持つようになっており、今年度までの事業を通して生徒のスキル向上がみられた。次年度は、今までの事業を継続するとともに、事業が生徒の活動の中でどのように活かされたかを調査し、その効果を検証したい。
- (3) 英語によるコミュニケーション能力の育成では、リサーチプロジェクト終了後、生徒の4技能5領域に対する意識調査を行い、各領域において79%～85%の生徒が、「良い影響を受けた」と回答しており、自己能力評価で肯定的な捉え方ができるようになっている。次年度は、Discussion等即興性が必要とされる活動も視野に入れて、授業展開を図っていきたい。
- (4) グローバルな視野の育成では、引き続き台湾の学校とのWeb交流や現地校訪問等をもとに、全校生が関係するインバウンドを意識した実現可能な旅行商品の開発を他のプログラムとも協力して行う。また、講演会等によって、日頃から海外の市場を意識したビジネス、さらには地域において世界をターゲットとしたビジネスを展開している先進例を学び、身近なことから一層視野が広がるよう取り組んでいきたい。
- (5) 情報処理・活用能力の育成では、1年次でJavaによるプログラミング、2年次でデータ自体の意味を考えるデータベース設計などの能力を身に付けてきた。次年度はこれらを活かして、販売データなどが処理できるPOSシステムなど、実務を意識した総合的なプログラム開発を行うことを目標とした教育プログラムを展開したい。各学年での取り組みが、段階的かつ継続性のある指導で行われることで、生徒の情報処理に関する資質・能力の向上に努めたい。
- (6) 会計情報の分析・活用能力の育成では、次年度も継続して、株式会社の実務で必要とされる会計処理の内容を踏まえ、経営管理や経営分析ができる能力を育成するため、講演会や外部講師による講座を実施したい。また、ビジネスにおけるグローバル化に対応するため、BATICを学習し、英語で財務諸表を理解できるスキルを身に付けさせたい。
- (7) 金融リテラシー能力の育成では、FP講演会を2・3年生に実施し、FP技能検定取得のための講座を10月から12回実施した。次年度以降は、3年生の「課題研究」において2・3級FP技能検定を目指す予定である。課題としては、2年生の段階でFP技能検定の必要性を理解し、3年生で実際に3級・2級と受験する体制を築くために教員側がFP技能検定の難易度を把握するとともに、自己研修や資格取得のためのセミナーに参加し指導体制を構築する必要がある。